

# 8月の県内景況調査結果の概要

## 1. 主要指標の前年同月比DI値の動き

28年8月のDI値は、8指標中5指標が僅かながら上昇となった。「景況」と「販売価格」は下落。「資金繰り」は横這いであった。

## 2. 県内中小企業の景況の現状

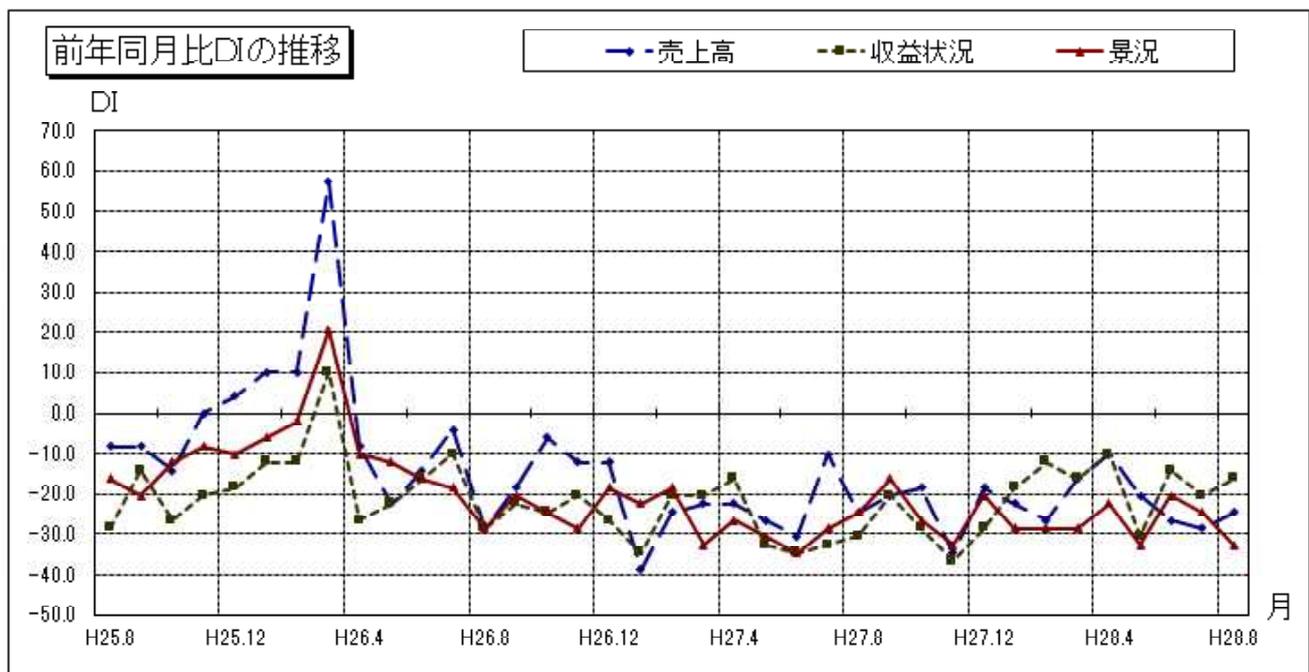
一部の業種においては、秋需期に向けて引き合い増加や原油価格の低下状態、運賃改定により収益面が改善基調にあるなど、景況の実勢に復調の兆しが見え始めている。しかし、今月寄せられた報告からは、円安による原材料高で利益が圧迫されている事や猛暑による売上高への影響、公共工事発注率の低下に頭を抱えているといった声が聞かれ、景況感の下振れ懸念が依然として緩和されない状況が継続している。

台風による影響、海外情勢及び為替市場の不安定な状況に加えて、慢性化した人手不足も積重し、県内の中小企業経営における先行き懸念は内需・外需ともに高まっている。

### 最近の主要指標の前年同月比DIの推移

	H27 8月	9月	10月	11月	12月	H28 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	増減
景況	-24.5	-16.3	-26.5	-32.7	-20.4	-28.6	-28.6	-28.6	-22.4	-32.7	-20.4	-24.5	-32.7	-8.2
売上高	-24.5	-20.4	-18.4	-34.7	-18.4	-22.4	-26.5	-16.3	-10.2	-20.4	-26.5	-28.6	-24.5	4.1
収益状況	-30.6	-20.4	-28.6	-36.7	-28.6	-18.4	-12.2	-16.3	-10.2	-30.6	-14.3	-20.4	-16.3	4.1
販売価格	2.0	2.0	0.0	-2.0	4.1	0.0	4.1	8.2	4.1	-10.2	-10.2	2.0	-8.2	-10.2
取引条件	-14.3	2.0	-2.0	-6.1	-2.0	-2.0	-8.2	-10.2	-6.1	-6.1	-8.2	-10.2	-6.1	4.1
資金繰り	-10.2	-14.3	-10.2	-18.4	-8.2	-22.4	-12.2	-12.2	-8.2	-6.1	-10.2	-10.2	-10.2	0.0
設備操業度	-16.7	0.0	-11.1	-16.7	-11.1	-22.2	-27.8	-27.8	-22.2	-33.3	-11.1	-38.9	-33.3	5.6
雇用人員	-6.1	-14.3	-12.2	-12.2	-14.3	-16.3	-22.4	-24.5	-24.5	-18.4	-20.4	-22.4	-16.3	6.1

※DI値…好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。



## [景況関連の報告]

### 【製造業】

#### <食料品>

##### 1. 味噌

前年同月比、味噌の生産量は89.3%と大幅な減少となった。猛暑による影響も心配され、出荷量も微減となった。徳島県ブランドである「御膳みそ」は生産、出荷とも味噌全体の3割を堅持した。

##### 2. 菓子

売上高不変。収益状況悪化。昨年位から、菓子製造業に対し輸出促進のイベントが実施されるようになった。今秋に入り、ショッピングモールでは新企画イベントが実施されようとしており、販売強化へ向けて進んでいる。我々中小企業もチャンスと捉え、その企画に参加すべきと思う。

今後、食品表示法について食品加工場はハイレベルな衛生管理が求められるようになってくるようであるが、工場の改装費などの経費を考えるとかなりの投資になると頭を抱えている。

#### <木材・木製品>

##### 3. 木材

秋需期に向かい、原木出材量は多くなっており、価格もやや強含みに展開している。今後の売上増に期待したいところではあるが、製材製品需要に大きな進展が見られない。原木が新材になり、各製材所からの注文が多くなってきている。

##### 4. 木材

木材業界に関連する業態は、相変わらず大変厳しい状態である。景気が上向いているような要素は全く無く、自分たちの会社が危機的な状態にならないようにすることで精一杯である。

#### <印刷>

##### 5. 印刷

売上高不変。収益状況不変。今年の夏は、オリンピックや高校野球、その他イベントで大いに盛り上がった。この盛り上がりを見事に景気回復に繋げていきたいものだ。

また、円安による原材料費の上昇は利益を圧迫しており、今後、円高での多少のコストダウン効果を期待している。

##### 6. 印刷

前年同月比では、売上高は全般的に横這いであるが、収益状況が若干悪化したと感じる。

地元企業からの受注は相変わらず低調である。都市圏は9月初旬から動きが活発になるが、地元では例年夏場は引き合いが少なく、9月半ばまで動きは期待しづらい。

#### <窯業・土石製品>

##### 7. 生コン

8月は対前年比、出荷量は減少。毎年8月は、お盆休みもあり出荷量は少ないが、今年は公共工事の発注が少なく、本年度に入って全体的に昨年を下回る出荷量が続いている。

## <鉄鋼・金属>

### 8. 鉄 鋼

業況に大きな動きはないものの、一部売上高の減少や設備操業度の低下がみられた。新たな設備投資の動きも見受けられるが、依然として景気回復感は薄く、先行き不透明感が拭えない。

### 9. ステンレス

売上高不変。収益状況不変。不安定な為替相場で、輸出関連への影響も懸念される。国内も景気回復感が少なく、先行きの不透明な状況が続いている。

## <一般機器>

### 10. 機械金属

売上高や収益状況の改善に繋がる大きな変化は見られない。中国経済の衰退や円相場・株価の乱降下に伴う国内経済への影響など景気への先行き不透明感が依然として強い。また、雇用情勢の回復による中小企業への人手不足が懸念される。

## 【非製造業】

### <卸売業>

#### 11. 食糧卸

売上高減少。収益状況悪化。原料玄米の価格が上昇気味であり、利益を圧迫している。台風による品質低下が心配される。

#### 12. 各種商品卸

売上高不変。収益状況不変。秋需へのスタートが遅れ気味である。

### <小売業>

#### 13. 繊維卸

売上高減少。収益状況不変。流通の中で、既存の販売方法をとっている小売業は売上が縮小しており、新しい売り方として大手ネット通販や自社の商品やサービスをインターネット上に置いた独自運営のウェブサイト販売するECサイトが注目されている。資本力やスピードでは強い力を持つ大企業に対し、中小企業の小売業は新たなサービスを生む事が求められている。

#### 14. ショッピングセンター

昨対比はスーパー92%（食品93%、衣料88%）、専門店94%であった。店舗全体では昨対比93%という結果であった。専門店では、先月オープンした飲食店の売上が好調である。衣料品、住居関連、装身具や文房具などの身の回り品の店舗は売上に苦戦しているようだ。また、新規店舗の誘致に力を入れているものの、なかなか進まないのが現状である。

#### 15. プロパンガス

今度の防災訓練で地域の方々にガスの発電機の良さを周知し、業況の好転に繋がっていきたい。

#### 16. 電気機器

先月に引き続き、エアコン等の季節商品は動いたが、その他の家電製品は動きが鈍い状態が続いている。

## 17. 畳小売業

8月の猛暑は職人の高齢化が進む畳業界にとっては厳しかった。あまりの暑さで、消費者は室内のリフォーム等、仕事の依頼が少なかった。これから涼しくなってくるので、需要の増加に期待を寄せている。

## <商店街>

### 18. 徳島市

例年8月は閑散としているが、今年は猛暑続きの影響により更に客足が鈍かった。特に商店街では、セールが終わり秋物の時期であるが、市況の悪さも重なり業況は悪化した。飲食関係は好調に推移している様子。

### 19. 阿南市

猛暑の影響で客足が少なく、売上も変化がなかった。

## <サービス業>

### 20. 土木建築業

新直轄工区は主工事の移行に伴い、工事量は少し減っているが、阿南道路等の南の工事や既設道路構造物の維持管理の業務量が増加している。

### 21. 自動車整備

平成28年8月の登録車の新車登録は対前年比+4.0%、中古車は+7.2%、合計+4.7%の微増となった。一方、軽自動車の新車登録は対前年比-10.6%、中古車+22.3%、合計は-1.9%で微減。

登録車・軽自動車の登録合計は対前年比+1.8%。例年8月は稼働日数が少ない為、自動車販売数が落ちるが、今年是对前年比売上高が増加となった。

車検及び点検整備などの収益状況は、ほぼ例年並み。

### 22. 旅行業

バス料金が改定されてから価格が上がった事により、収益状況は良くなった。

しかし、業況は猛暑であった為あまり人の動きもなく、低調であった。

## <建設業>

### 23. 建設業

公共工事の発注が遅れている影響で、上半期発注率80%にはほど遠い状況である。補正予算を早期に執行し、29年度予算は対前年度比16%増を計上予定であるが、計画通りとなることを求む。

### 24. 解体業

住宅の住み替え支援事業による空屋住宅解体工事発注が好調である。

### 25. 板金工事業

仕事は順調に受注しているが、収益が伴っていない。

### 26. 電気工事業

新設住宅口数は、172件（対前年比75.1%）と大幅に減少した。

## <運輸業>

### 27. 貨物運送業

毎年、お盆休暇で売上は減少する。一般貨物輸送は、飲料品関係において今年も猛暑日が多かった為輸送量が増加したが、近年の傾向として阪神や関東方面の仕事はあるが、帰り便が無い為、厳しい状況が続いている。

軽油単価の低下状態により収益は黒字基調となっている。

## 28. 貨物運送業

製造関係では、猛暑日が続くことから清涼飲料水の出荷増への期待があったが、そこまでの伸びはないようである。

事業者からは「暑すぎると外出を控えるので、飲料の販売が伸びない」という声や「オリンピックイヤーは売上が悪い」といった声が聞かれた。